

Event information on a library 図書館イベント情報

3/3 (土)

大人のための朗読会～名作に親しむ～

【日時】 3月3日(土) 14:00～15:00 【場所】 中央図書館視聴覚室
【朗読】 寺田道雄 (アナウンサー、「七月の朗読会」講師)
【作品】 「羅生門」「ビルマの豎琴」他
【対象・定員】 大人 (中学生以上) 60人
【申込み】 中央図書館で受付中。(定員になり次第締切)

4/3 (火)

平成24年度 としょかん・くらぶ 会員募集開始

【日程】 第4土曜日に開催 (7、9、12月を除く) 第1回目は、4月28日(土)です。
【時間・対象】 10:10～11:00 / 1・2年生 (定員40人)、11:10～12:00 / 3～6年生 (定員55人)
【内容】 おすすめ本の読み聞かせと読書力にあわせた本の紹介。子どもが本好きになれるように工夫を凝らしています。
【申込み】 4月3日(火) 10:00 から中央図書館にて受け付けます。図書館にある申込書に記入してください。電話不可。本人か家族のみ申し込みができます。



図書館だより

http://www.lib.miyoshi.saitama.jp

中央図書館 ☎258-6464

開館時間 / 10:00～19:00 (土・日は 18:00 まで)
休館日 / 毎週月曜日、月末日、土・日除く祝日

竹間沢分館 ☎274-1722

開館時間 11:00～18:00
休館日 / 毎週月曜日、月末日、土・日除く祝日

地域文庫

児童書の貸出、お話をなどを行います
つくし文庫… 3月17日(土) 10:00～12:00
場所 / 上富第1区集会所
あらた文庫… 開庫・火曜日、15:30～18:00
場所 / 荒田自宅 (藤久保536-4 三芳東中学校近く)

教育トピックス 「地域の一流選手に高い技術を学ぶ」

1月19日に唐沢小学校で、3年生から5年生までの子どもたちを対象に、地域の強豪チームである大崎電気ハンドボール部の選手を招いての交流事業が行われました。この交流事業は、地域の一流のスポーツ選手の動きを見て、一緒に楽しんだりすることによって、スポーツに親しみながら、子どもたちの体力向上を目指そうというものです。



ハンドボール選手との交流の様子

また町では子どもの投力に課題があり、ハンドボールのようなボールを手で扱う運動は、子どもたちの投力を伸ばすためにとても適したスポーツです。当日は気温が低いこともあり、実技は準備運動と相手をかかわす練習を兼ねて鬼ごっこから始まりました。体が温まると、実際にハンドボールに触れまると、ハンドボールは、ドッジボールよりもやや小さいので扱っても楽に見えますが、そう簡単ではありません。初めてハンドボールに触れた子どもたちは、ていねいな指導によって、さらに上手になっていきました。ジャンプシューアの練習では、タイミングが合わずによくボールが投げられず苦労していましたが、みんなとても楽しそうでした。5年生は昨年度に引き続き2回目の体験で、最後に試合をすることができました。ルールの似ているバスケット

トボールの経験を生かし、スムーズな動きで協力しながらゲームを楽しむことができました。
参加した子どもたちからは、「楽しく指導してくれたのでとてもやる気が出ました。」また、「あきらめずに努力することが大切だということを教えてくれました。」などの感謝の言葉がたくさん出ていました。
地域の一流選手を招いての交流事業は、なかなか見られない高い技術を直接感じられるだけでなく、町への愛着を高めることのできる有意義な機会です。この体験を生かし、町の子どもから将来世界で活躍できる選手が生まれたい素敵ですね。
【学校教育課 (内523)】

BOOK SELECTION

【図書館の本棚】「手紙」—家族、恋人、友人、師弟などに宛てた手紙にまつわる本を紹介します—

児童書

空色の地図

梨屋アリエ/作
金の星社 2005年11月初版発行 請求記号 K913ナ



昔の自分が書いた手紙が突然手元に届いたことから始まるフィクション作品。かつての友人と同じ目標に向かうなかで、うまく言葉にできずに抱えていた気持ちに気付いていく。

一般書

イカリ少年がもらった奇跡の手紙 —お医者さんの道を選んだ病室での8年間—

碓浩一/著 青春出版社 2006年9月初版発行
請求記号 289イカ



闘病生活をしている間も、終えた後も主治医の先生が毎日のように励ましの手紙を送ってくれた。そこから「自分を信じること」の大切さを学び夢を叶えるまでの道のりを綴った自伝。

一般書

『君に贈る最後の手紙』

—いちばん大切な人に伝えたい思い—
リチャード・カールソン/著 クリスティーン・カールソン/著
田内志文/訳 日本実業出版社 2009年2月初版発行請求記号 159カル



夫に先立たれた妻が、夫と実際に交わした手紙のやりとりや、その時々のお持の動きを書き記した一冊。「もしも最後がいつ来るかわかっていたら何をしますか?」と読者に問いかける。

一般書

心に残る111通の愛の手紙

静岡県袋井市文化協会/編
朝日出版社 1998年11月初版発行 請求記号 816ココ



本書は普段の生活の中でなかなか気づけずにいる人や事について感謝した内容の手紙を広く募集し、選りすぐりの作品を収録している。大切な人、ものに宛てた手紙は心を温かくしてくれる。

みよし歴史探訪

文化財を訪ねて

第十二回 道しるべ

携帯電話で行き先や乗り継ぎが検索できる時代ですが、ひと目で行き先がわかる道路案内板は便利なものです。ましてや地図も発達していなくなった江戸時代の旅人にとって、分岐点に立てられた道しるべは、とてもありがたいものであったに違いありません。

道しるべは、大きく二種類に分類できます。一つは本来の姿である道案内を目的としたもの、もう一つは他の目的で立てた石仏などを利用して道案内を兼ねるものです。町内に残る四基の道しるべの内、道案内の目的で立てられたものは一基のみです。他の三基は仏や真言(呪文)、名号などが刻まれた供養塔が道しるべを兼ねる形となっています。このように、道しるべが信仰と結びつく背景には、「道」が単に道路の意味だけでなく、道徳的な意味を持つためといわれています。また、道しるべを立てることが功德となり、死後も道に迷わず往生できるという信仰に強く結びついているものと見ることができます。

町内に残る四基の道しるべは、交通事



多福寺入口脇に移設されている道しるべ

情の変化により、建立当時の位置に立ち続けているものは、残念ながら一つもありません。上富南止の「正徳の庚申塔」脇に立つ文化九年(一八一二)の燈籠型道しるべは、庚申塔とともに竹間沢地内から二基移設されています。文化年間(一八〇四～一六)の供養塔型道しるべは、市街道(竹間沢変電所付近)にありました。万延元年(一八六〇)の道標型道しるべは、市街道の辻(竹間沢小プール付近)に立っていたといわれます。
【社会教育課 (内517)】